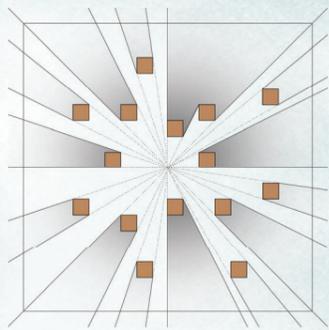


肆

プラン

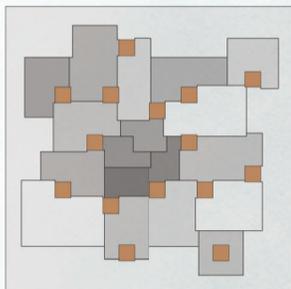
一、余白を作り出す

中心から放射状に直線を伸ばし、死角となる範囲の検討を行った。「死角」=「余白」という直接的な表現により、視覚的な欠落を空間の豊かさへと転換し、意図的に人の気配や光を取り込む設計を試みた。



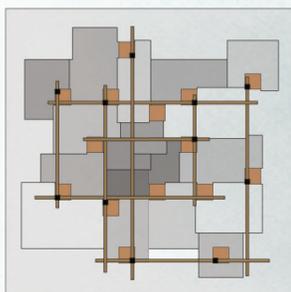
二、視線に変化をつける

スラブにレベル差を設けることで、不特定多数の人々が使用する東屋内での視線の交差を防止した。さらに、視線の流れをコントロールすることで、人々が適度な距離感を保ちながらも、気配を感じ取れる空間を生み出した。



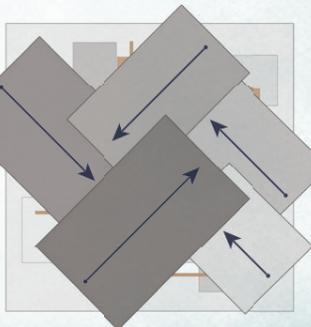
三、梁でゾーニング

上の句、下の句を利用者に感じてもらうため、季節ごとに变化する仕切りを吊るす梁を設けた。ランダムに配された梁からはほのかに木の香りが漂い、東屋で過ごすひとときを、より穏やかで心落ち着くものにする。



四、風や光を通す屋根

ある程度の通風性と採光性を確保し、季節ごとの気温や湿度、香りの変化を感じられるよう、片流れ屋根を採用した。この屋根形状は、方行屋根が主流の東屋に新たな可能性をもたらすものとなる。



透き通る半透明のオブジェで冬の静けさを助長させる



梁に透明感のある布を張り巡らせ、爽やかさを演出

冬 春
秋 夏



すすきの植栽により、秋の風情を感じられる景観を創出



簾を吊るすことで夏の厳しい暑さを和らげる

季節ごとに变化する装飾により、日常の中に、四季を感じられる詩的な空間を提供する。

伍

展望

この東屋は、新宿の喧騒から一歩引いた静けさを提供し、都市空間に「余白」や「暗示」を生み出すことで、人々に心の安らぎを与える場所となるだろう。

和歌的な空間表現を取り入れることで、季節の移ろいを感じられる文化的価値を提供し、国内外の観光客にも魅力的な拠点になる。今後、この東屋が都市景観に溶け込むことで、周辺の公共空間にも活気を与え、人々の交流や休息を促進する場として、都市の魅力を高めるだろう。

